

(2) 核融合のための原子分子データに関する IFRC/INDC 合同小委員会第 2 回会合

1) 出席者

E. C. Beaty (前出, IAEA/NDS)

C. M. Braams (Chairman ; IFRC メンバー, オランダ)

J. Decker (INDC メンバー, 米国)

H. W. Drawin (前出, IFRC メンバー, フランス)

T. Fuketa (前出, INDC メンバー)

A. Lorentz (前出, この会合の Scientific Secretary, IAEA/NDS)

Yu. V. Martynenko (前出, IFRC メンバー, ソ連)

M. K. Mehta (INDC メンバー, インド)

H. T. Motz (オブザーバー, INDC メンバー, 米国)

J. J. Schmidt (前出, IAEA/NDS)

R. Seamon (前出, IAEA/NDS)

H. Suzuki (前出, オブザーバー)

G. B. Yankov (前出, INDC メンバーとして, 但し INDC の方は後述の通り V. Kulakov と交代)

2) 前回の会合の決定事項の検討

(a) CEC (Commission of the European Communities) として West European A+M Data Center を考えるのは時機尚早である。将来 NEA が責任を負う可能性もあるから NEA (CCDN) が A+M 活動について良く知らされている必要がある。

(b) atomic wave functions 編集することには (目下) 否定的である。

(c) review of dielectronic recombination data を誰かやらないかということについては, Beaty が Burgess に接触する。

3) Quarterly Bulletin について

前記(1)の会合の結論を全般的に承認した。

現在のところ NDS/A+M Data Unit の manpower が小さいことを考慮して, magnetic confinement devices に優先度を置くことは承認されるが, inertial confinement devices を除外してはならない。将来は, より広い関連の要請についても考慮すべきである。

4) Index to A+M Collision Data について

前記(1)の会合の結論を全般的に承認した。但し, 網羅すべき年代の範囲については制限をつけられないこと, 表題を含むより詳しい情報をデータ・ファイルには入れるが Index の出版

物には表題等は省くこと、molecular data については extremely selective であるべきこと、などを勧告した。

- 5) NDS / A+M Data Unit に 2 名 (P - 2 level の physicist と G - 6 level の programmer) の増員をしたいとの要求に対しては、詳細な具体的提案を持って勧告することとした。なお、現在 3 名が A+M Data Unit の専任であり、これに加えて Schmidt と Lorenz がそれぞれ 50 % A+ M Data 関係の仕事にとられているが、これ以上 NDS の核データ側のマンパワーを使うつもりはないとのことであった。
- 6) Terms of reference に関して、この snbcommittee が公的機関 (IAEA を含み) に実質的な働きかけを行う場合には、親委員会である IFRC と INDC の chairmen の承認が必要であることとした。
- 7) Agenda items left from last meeting のうちで既述のことに含まれないものとしては次のようなものがあった。

fusion community と academic atomic physics community との間の interaction に関して NDS が如何に機能し得るかについては、1 つには Bulletin に fusion community からの要求を載せることが役立つであろう。この関連で、核データについての WRENDA が話題になり、requests に対し米国では buffer # があるが self - supporting request には注意すべきであるとのコメントがあった。この点は Bulletin に載る requests にかなり説明がついていれば危険はないと思われる。(# なお、WRENDA については、日本でも original requests に対し screening の作業を行った上で WRENDA に登録するようにしている。)

surface interaction は益々重要になってきている。surface interaction に関する review が奨励される。但し、numerical surface interaction data の compilation は too early である。

A + M data publication に関して、journal publications に keywords をつけることや多量の data は直接データセンターに送るようにすることなどを推進することは時機尚早である。

- 8) 前記 (1) の会合において、A + M data centers としては NBS の centers のような topical centers (特定の物理量について世界全体を網羅する compilation を行うセンター) があればよく regional centers は必要でないとの意見の人 (明確な発言者は 1 人) が居たが、topical center か regional center かの philosophical discussion は今回はしないこととした。
- 9) 次回会合は 1978 年 5 月を予定するが、増員の問題等のため chairman が特に必要と認めれば 1977 年内に臨時召集する可能性もある (結果として無かった) 。